

発行所
石川県保険医協会
 〒920-0902 金沢市尾張町2丁目8番23号
 太陽生命金沢ビル8階
 ☎(076)222-5373番 FAX(076)231-5156番
 URL <http://ishikawahokeni.jp/>
 編集部E-mail ; iskw_sugino@doc-net.or.jp
 発行人 西田直巳
 印刷所 ソノタ印刷株式会社
 購読料 1年間 5,000円(〒共)
 (*本紙の購読料は会費に含まれます)

石川保険医新聞

主な記事

- 2面 再生医療講演会
 - 3面 『公費負担医療等の手引』説明会
 - 4面 国民皆保険50周年共同企画
 - 5面 「見逃してはいけない」シリーズ
 - 6面 第8回食育講演会
 - 8面 ザ・公衆衛生
 - 9面 2011年10大ニュース
- 今月の会員数 / 1,030人(医科732人・歯科298人)



クラリネット三重奏：JMC (Johhoku Music Club)

東日本大震災・チャリティーコンサート

過去最高 13組21人が出演

北山 吉明 (金沢市・形成外科)

石川県保険医協会主催の恒例コンサートが、十一月二十日(日)に金沢市民芸術村ミュージック工房で開催されました。今回は、東日本大震災の復興支援チャリティーコンサートという大きな意義も加わり、過去最高の十三組二十一人の出演者が集まりました。出演者の内訳も医師、コメディカル、家族、友人、そして患者さん、と多岐にわたりました。

コンサートは、斉藤典才先生の司会で進められ、大平政樹先生の開会あいさつでスタートしました。狩野宏成先生と牛村繁先生のギター伴奏による歌、長山郁生、広崎晃雄の各先生によるギター独奏、患者の竹谷文男さんとわたしはカンソオーネ独唱、荻野知己先生のフルート独奏、額浩一先生のお嬢さんたちによる素晴らしいピアノ独奏、山崎政美先生、谷内久世さん、



テノール独唱：竹谷文男

わらず来場された百二十二人の観客は、心から音楽を楽しみ、そして、会場に設置された募金箱に、多くの善意(七万八千二百三十円)が集まりました。チャリティーは大成功だと、出演者、スタッフは大感激しました。

コンサートに引き続き、



クラシックギター独奏：広崎晃雄 (広崎外科医院・小松市)



ピアノ独奏：額歩実(左)・千裕(右)
(額浩一先生(額内科クリニック)のお嬢さん)

小島菜採さん(JMC)はクラリネットアンサンブル、このJMCに小川滋彦先生が参加したクラリネット四重奏、加藤理良先生とその友人、亀本侑志さん、大谷渉さん、伊藤昇さんによるオルビスNANA Oの弦楽四重奏、そして、金沢医療センターで定期的にコンサートを開催されている越田潔先生、瀧口哲也先生、伊勢拓之先生のヴァイオリン、フルート、ピアノトリオ(KMCアンサンブル)に小川滋彦先生も加わって、三時間にわたり、楽しく素晴らしい演奏が繰り広げられました。雨にもかかわらず来場された百二十二人の観客は、心から音楽を楽しみ、そして、会場に設置された募金箱に、多くの善意(七万八千二百三十円)が集まりました。チャリティーは大成功だと、出演者、スタッフは大感激しました。



クラシックアンサンブル：KMC アンサンブル



フルート独奏：荻野知己
(おぎの胃腸科クリニック・金沢市)



クラリネットとピアノのデュオ：
小川滋彦 (小川医院・金沢市)
伊勢拓之 (金沢医療センター・内科)



ギター二重奏・歌：Shige²
狩野宏成 (かりの眼科医院・金沢市)
牛村 繁 (うしむら眼科クリニック・白山市)



司会：斉藤典才
(城北病院・外科)



クラシックギター独奏：長山郁生
(長山耳鼻咽喉科医院・金沢市)



テノール独唱：北山吉明
(北山クリニック・金沢市)



弦楽四重奏：オルビス NANA O

医心凡語

先日、個別指導を受けた。昨年の九月に一回、そして今回二回目の個別指導で、昨年指導された注意点が順守されているか確認のためのものである。

今回の個別指導にあたっては、前回の指導で指摘された、いくつかの注意点を改善して臨んだのであるが、指導官は、「昨年の指導時の問題点も改善されており、概ね良好」と告げながらも、いくつかの新たな指摘もされた。

一昨年、地方厚生局へ指導・監査などの実施主体が移管されてから、指導・監査が厳しくなっているとは聞いていたが、私自身、二回も指導を受けるとは予想していなかった。確かに、以前のような、重箱の隅をつつくような指導ではなかったが、われわれ保険医療機関としては、一年ちよつとの間に二度も指導があると、精神的・肉体的にもきついものがある。日常診療の合間に指導のための準備、カルテ整備・帳簿・関係する伝票の整理など、大変である。一回目の指導は理解できるが、二回目の指導は、原則としては廃止するべきであろう。つまり、あきらかに不正行為などの悪質な事案に限るべきだ。

以前は、改善報告書を出すだけであったのが、昨今は、自主返還金も要求されている。わが保険医協会のさらなる奮起をうながしたい。

再生医療講演会

歯科界の未来に希望の光

再生医療の実用化を実感

歯科部 津田 謹誠(津幡町)

保険医協会歯科部は、十一月六日、ホテル金沢において再生医療講演会を開催し、約三十人の歯科医師、歯科衛生士らが参加しました。



講師の鶴見大学歯学部口腔内科学の里村一人教授

講演会はまず、鶴見大学歯学部口腔内科学教授の里村一人先生より、「歯科領域を中心に加速する再生医療」というテーマで、再生医療の基礎から最新情報までをお話いただきました。

講演の中で特に興味をもったのは、次の二点です。①歯の再生研究において、ハツカネズミの歯の形成に



約30人の歯科医師、歯科衛生士らが参加して開かれた再生医療講演会(11月6日・ホテル金沢)



講師の(株)再生医療推進機構の岩堀禎廣技術部長

は五十日かかる。これをヒトにあてはめると膨大な時間を要するため、歯の形成を促進させる方法を確立しておくことが重要であり、そのキーポイントになるのがメラトニンである②分化転換現象を利用して、生体内で最終分化した機能細胞を別の機能細胞に変化させることにより、幹細胞に依存しない再生医療の実現をめざすということ。

初めて耳にする話も多く、膨大な情報を九十分という限られた時間で分かりやすく解説してくださいました。里村先生に敬服すると同時に、再生医療分野のトップ

「こんなんしてもらおうのが夢やったわ!」これは、名前が入った義歯を本人に返したときにいただいた言葉である。大きさにも感じるが、歯が無い方にとって、義歯がどれほど大切かを知った瞬間でもあった。

義歯ネーム入れボランティアは、保団連が行うイレハデー(十月八日)からキャンペーンの一環で、歯の大切さを県民に広く知ってもらうことを目的に、今年、石川県保険医協会歯科



削る、ラベルを貼りレジンを塗る、研磨担当などに分かれ、2時間で22人分43床に名前を入れた(10月20日、特別養護老人ホーム・富樫苑にて)

ランナーが歯科の領域にいらっしやることを大変心強く感じました。里村先生の講演後は、株式会社再生医療推進機構技術部長の岩堀禎廣先生より、「歯髓細胞バンクが果たす役割」というテーマでお話しいただきました。細胞バンク用の細胞は、歯髓が臍帯血や骨髄と比較してさまざまな点で有利である

私たちが歯科医師は、日々、歯科医療を通じて患者さんの未来の幸せに貢献したいと考えています。今回、両先生から再生医療が着々と実用化されている現状をお聞きしたことで、私たちが再生医療に貢献できる日もそれほど遠くないと確信し、歯科界の未来にも希望を持つことができました。

入れ歯に名前が入って夢がかなった

事務局 小野 栄子

「こんなんしてもらおうのが夢やったわ!」これは、名前が入った義歯を本人に返したときにいただいた言葉である。大きさにも感じるが、歯が無い方にとって、義歯がどれほど大切かを知った瞬間でもあった。

船本長一朗先生、浦崎歯科医院の浦崎裕之先生、竹内誠先生、歯科技工士の山形克己さんと島田俊彦さん、保険医協会副会長の平田米守る。不安そうにモゴモゴと何かおっしゃるが義歯が入っていないのであまり聞きとれない。義歯は食べる

施設に何うと、興味津々の職員や入居者の方が集まってくる。名前を入れる部分でなく、発声にも必要なことに改めて気づく。「さあ、完成しましたよ!」と歯科医師から義歯を渡された方は、おもむろに義歯を口に運び、ニコッと笑う。そしておっしゃったのが冒頭の言葉である。



治療の相談にのったり世間話をしながら、なごやかに作業が進んでいく(10月5日、有料老人ホーム・ハマナスにて)



名前が書かれたラベルの上に透明のレジンを塗り、乾燥させて研磨すると、名前が鮮明に見えるようになる

年末・年始の事務局休務のご案内

左記の日程で、事務局を休務させていただきます。よろしくお願いたします。

二〇一一年十二月二十九日(木)から二〇一二年一月五日(木)まで

『公費負担医療等の手引』説明会

患者さんのために 制度の深い理解を

理事 三宅 靖(金沢市・内科)



31医療機関から55人が参加して開かれた『公費負担医療等の手引』説明会
(11月27日・ホテル金沢)



保険医協会講師陣、左から三宅靖理事、工藤浩司事務局長、橋爪真奈美事務局長

十一月二十七日、ホテル金沢において『公費負担医療等の手引』説明会が開催されました。これは保団連独自の同名のテキストに沿って医療・介護における各種の負担軽減制度などを網羅して説明するもので、三十一医療機関から事務担当の方を中心に五十五人の参加がありました。

冒頭、当協会の西田会長があいさつに立ち、この会を通して医療機関側が制度の理解を深め、患者さん、利用者さんに利益がもたらされることを希望する旨が述べられました。

引き続き、工藤事務局長より基本的な医療保険制度と、医療保険の諸給付の解説がありました。特に自己負担分の軽減となる高額療養費制度は日常業務でもしばしば遭遇するもので、通

常はレセプトごとに計算するものですが、保険者ごとに世帯合算し、また、場合によって介護にかかる費用も合算して世帯所得別に決められた限度額を超えた分に関して償還払いが受けられる制度の詳細が説明されました。

次に三宅から医師法・医療法に関する説明を致しました。内容は医師・医療機関の権利義務の保存、標榜義務、診療録の保存、標榜科および広告規制などにつ

いてでした。

次に橋爪事務局長から、介護保険、高齢者に対する医療制度についての説明がありました。主治医意見書を含めた一連の介護サービス提供の流れ、また県内の事例はないものの後期高齢者でも保険料を滞納すること資格証明書を発行することなどが制度上ではあり得ることなどの説明がありました。

最後に再度、工藤事務局長から、生活保護、身体障害、特定疾患(難病)、

労災、交通事故などに対する医療制度に関して、レセプト記載の具体例を含めての各論的な詳しい話がありました。

いろいろな制度が混在していますが、より多くの患者さん、利用者さんが恩恵を享受できるように、各種の制度をしっかりと整理して理解することが重要であると思われ、知らされました。

持論

十一月六日(日)、石川県立音楽堂にて「国民皆保険五十周年企画」として、「いのち・国民医療を守るリレートーク」なるらびに映画『いのちの山河』上映会を、石川県医師会、石川県歯科医師会をはじめとする多くの団体の後援をいただき、開催することができた。

近年、非正規労働者の増加、国民の平均給与所得の低下は明らかで、健康保険料が払えない人々が増えてきた。その結果、国民健康保険制度は財政的に危機的な状況となる一方、医療機関への受診遅れに起因する死亡事例が見られる。医療機関に視点を移せば、長く続く医療費抑

守ろう日本の医療制度

TPP参加で命が危ない

国民皆保険制度も危機

制政策によって経営は危機的であり、病院の閉鎖・統廃合が相次ぎ、多くの医療機関が疲弊している状態であろう。もう一度、医療や命の大切さを問いかける定)への参加を表明した。TPP

ために、年頭からこの企画を立案した。Pでは、工業製品、農産品、金融サービスなど、取り引きされるすべての関税撤廃が原則とされている。医療における影響について国は未だ明確にはしてい

ないが、単に営利目的の企業が日本の医療分野に参入してくるといった話では済まないかもしれない。

TPPは国際条約であるため、その拘束力は日本の国内法よりも上位に位置するとされている。そしてTPPには知的条項も盛り込まれる可能性がある。米国では手術といった技術に対しても特許の対象となっており、これが日本に導入されれば、今の国民皆保険制度は根幹から崩れることは想像に難くない。

人の健康、命に差別があってはならない。今こそ、声を上げて、日本の医療制度を自分たちの手で守らねばならない。

公費負担医療等の手引

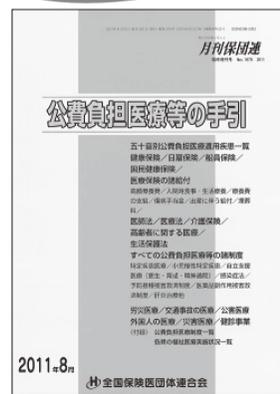
(2011年8月発行)

わが国における全ての公費負担医療制度を解説した医療機関必携の書

- ◆各種医療保険制度、医師法・医療法、介護保険、労災医療、公害医療、交通事故や外国人の医療等について詳細に解説。
- ◆これまでの災害医療の歴史的経緯を踏まえ、東日本大震災に係る政府・厚労省の災害医療対応を実務的視点から整理して掲載。
- ◆複雑な公費レセプト記載の要点について請求事例を用いて詳しく説明。
- ◆公費負担医療の患者に対する窓口対応のポイントや、請求事務における留意事項の記載もさらに充実。

●B5判 定価4,000円(税込)共

会員特価
1冊2,000円



2011.8

石川県保険医団体連合会

国民皆保険50周年共同企画

患者・医療者がつどい、国民皆保険の理念を確認

いのちの尊厳と医療を守るため



リレートークを行った報告者の皆さん (11月6日・石川県立音楽堂)

一九六一年、国民健康保険法が改正され、国民皆保険が実現しました。今年ちょうど五十年目の節目の年となります。この機会に改めて国民皆保険の理念を確認し、それをより発展させるため、十一月六日の午後一時から「いのちの尊厳と医療を守るつどい」を開催しました。

この企画は、保険医協会、石川県社協など五団体で構成した実行委員会により準備したもので、県医師会や県歯科医師会はじめ県内の医療関係十二団体の後援をいただき実現したものです。会場となった石川県立音楽堂邦楽ホールには、三百八十五人の県民の皆さんが集まっていたと聞きました。

冒頭、実行委員会の委員長である西田直巳保険医協会会長からあいさつがあり、引き続き、「いのちの尊厳と医療を守るリレートーク」が行われ、患者あるいは医療者の立場から、国民皆保険に対する切実な訴えがありました。

その後、「いのちの尊厳と医療を守る県民へのアピール」が参加者の大きな拍手により採択され、最後に映画「いのちの山河」が

いのちの尊厳と医療を守るアピール

1961年4月、すべての国民が公的な医療保険に加入することとなった「国民皆保険」が実現してから、今年ちょうど50年目の節目の年を迎えます。

「国民皆保険」は、憲法第25条の生存権保障の理念を具現化したもので、一人一人の国民が、いつでも、どこでも、だれもが、必要な医療を必要だけ受けられるようになることを意味します。これにより国民のおよそ3割を占めていた「無保険者」が制度上は解消されました。また、その後も国民は粘り強く医療・社会保障要求を掲げ、国民健康保険の給付率も引き上げられていきました。こうして医療保険制度は「加入者相互の助け合い」の制度から、国民の医療を受ける権利を保障する制度へと大きくその姿を変えたのです。さらに岩手県の沢内村では、1961年に高齢者・乳児の医療費無料化を実現させ、その後、地域住民の要求の高まりの中、医療費無料化の波が全国に広がり、1973年には国の制度として高齢者医療費の無料化が現実のものとなりました。

ところが、80年代以降の「臨調・行革路線」、90年代以降の「構造改革」の中で、医療保障の分野においても自助、自立、自己責任が強調され、医療費抑制と患者負担増の方向へ大きく舵が切られました。高齢者医療費の有料化、健康保険本人負担とその後の絶え間ない患者自己負担増、国保への国庫補助金削減、保険料滞納者に対する被保険者証の取り上げと資格証明書交付・「無保険者」の増大、高齢者を差別する後期高齢者医療制度の創設、医師数・看護職員数の不足と医療労働者の過重勤務による「医療崩壊」等です。これらの施策は、「患者が必要な医療を必要だけ受けられる権利」を保障するものと言えるでしょうか。

今年3月11日の東日本大震災は、医療や介護、障害のある人の福祉、保育など社会保障サービスの公的保障がなければ人は生きていけないことを改めて明らかにしました。しかしながら、先ごろ公表された「税と社会保障の一体改革」案は、まったく逆の視点に立っています。医療の分野に限っても、2025年度までに外来医療費の5%を削減する目標や、受診のたびごとに通常の定率負担に加えて100円の定額負担を導入するなど、医療費抑制と患者負担増の方向性を維持したままです。国民皆保険は、いまや崩壊の危機に瀕しています。

国民皆保険から50年の今日、基本的人権のひとつであり、「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」である「国民皆保険」の理念を貫徹させる取り組みが必要です。誰もがが必要な医療を必要だけ受けられることができるようにするため、現物給付を徹底させ、窓口負担の無料化、国庫負担の拡充、資格証明書制度の廃止、必要な医療を保障する診療報酬水準、医師養成数の拡大など、国民皆保険制度の拡充が不可欠です。私たちは、いのちの尊厳と医療を守るために、手を携えあっていくことを宣言します。

2011年11月6日

いのちの尊厳と医療を守るつどい参加者一同

本音のリレートークで皆保険制度を守ろう

副会長 大平 政樹 (金沢市・外科)

今回の企画の目玉は、リレートークと映画上映である。映画のお話しはほかに

上映されました。この映画は、「豪雪・貧困・多病」という大きな問題を抱えていた岩手県の沢内村が、全国に先駆けて高齢者医療費・乳児医療費の無料化を実現した様子を描いたもので、本企画の趣旨に合致し

(事務局 工藤浩司)

「国民皆保険制度の主役である現場の声を届けた」という思いが来賓あいさつを抜きにした本音のトークとなった。発表順も実際にユニークである。

まず、患者さんの声。乳がん患者さんのサークルから、今本桂子さん。効果と副作用ばかりが話題になる抗がん剤だが、その支払いが患者さんに重くのしかかっている実態。二人目の新日本婦人の会、飯森博子さんは、石川県で立ち後れている「子ども医療費無料化」運動の実践報告。三人目は、医療福祉問題研究会から、道見藤治さん。自身がかかり、保単に総括。東日本大震災がもたらした未曾有の悲劇。分析されていた。四人目は、認知症の人と家族の会を代表して表志津子さん。五人目は、城北病院ソーシャルワーカー、吉原和代さん。国保資格証明書が医療現場にもたらす混乱を怒りと共に報告された。最後は、今回のイベントの後援団体でもある県医師会から、紺谷一浩さん。内灘で地域医療に取り組みされている実践の中から、医師会が取り組む皆保険制度への熱い思いを司会者の言葉をまとめるとして、

第21回 「何でも学術! 何でも回答? よろず勉強会」

新シリーズ 「見逃してはいけない」

ちょっとしたカンファランスの雰囲気

理事 三宅 靖(金沢市・内科)



「何かおかしい・・・」と気付くためのヒントが盛りだくさんの新シリーズ (11月17日・近江町交流プラザ)

第二十一回「何でも学術! 何でも回答? よろず勉強会」が、十一月十七日近江町交流プラザ第一研修室で開催されました。この勉強会では、「歯科から医科への発信をひとつの柱としてシリーズ化していきま



講師の金沢医療センター内科系診療部長の吉村光弘先生

がわず大変に興味深いものでした。吉村先生は「この患者さんを帰宅させてよいか、あるいは入院させるべきか」で、常に悩むことが多いとおっしゃっていました。われわれ開業医にとつての「自分のところで診るべきか、あるいは病院に紹介状を書くべきか」という

いうプロセスのお話があり、会場では聞きながら聞き入る姿が多く見られました。今回の勉強会では、吉村先生の豊富な臨床経験の中から、多くの症例をご紹介いただきました。下肢の骨折でギプス固定をしたものの重症の肺梗塞、薬剤併用に伴うQT延長による意識消失、抗ウイルス剤による急性腎不全など、まさに「怖い症例」が示されました。また、提示された症例のうち、再発性多発性軟骨炎、リウマチ性多発性筋痛症、RS3PE症候群、食物依存性運動誘発アナフィラキシーなどはフロアーから即座に正確な診断が出るなど、ちょっとしたカンファレンスのような雰囲気でした。

院外でのインフルエンザ予防接種にご注意を!

自宅、医療機関に準じる場所以外での診療には、医療機関の開設届けが必要です。これには、院外でのインフルエンザ予防接種も含まれます。保険診療ではないから、関係ないというわけにはいきません。ご注意ください。ところで、このインフルエンザワクチンの院外での接種ですが、昨年より取り扱いがかなり緩和されています。すでに、金沢市保健所や、県医療対策課からFAXなどで連絡があったとおりです。緩和の概略ですが、①公的機関、医療法人が行う場合は、巡回診療計画書を所轄保健所へ届けるだけで可②その他の個人診療所が行う場合は、医療機関の開設届けが必要。ただし、届け出は以前より簡素化されている。という内容です。詳しくは、所轄保健所へご確認ください。

医師とコ・メディカルのための講演会in能登北部

十月三十日(日)輪島市文化会館において、「傷の正しい治し方」と題して、昨年に引き続き、能登北部医師会との共催で医師とコ・メディカルのための講演会が開催され、五十四人が参加した。講師の水原章浩氏(東鷺宮病院副院長)のお話は、昨年金沢において大変好評だったため、ぜひ能登地区会員の皆様にも聞いていただきたいとの思いから実現となった。

伊藤英章能登北部医師会副会長のごあいさつに続き、傷は「消毒しない」「水で洗う」「乾かさずに被覆する」の三原則を実践し、まるで魔法のよう

昨年好評の水原章浩氏を招き

傷や褥瘡を魔法のように直すテク

理事 小川 滋彦(金沢市・内科)

に傷や褥瘡を次々と治していく水原氏の豊富な症例供覧は、二時間をあつという間に過ごさせてくれた。もちろん、そこには創傷治癒の科学があり、エビデンスがあり、そして何よりも患者と正面から向き合う実践があることが、心に響く講演であった。



54人の医師、コ・メディカルが集まり開かれた「医師とコ・メディカルのための講演会 in 能登北部」 (10月30日・輪島市文化会館)

今回も、医師や看護師、介護職員等が同じ時間を共有する「医師とコ・メディカル」の真骨頂を發揮した集いとなり、能登地区の多職種連携がさらに深まることが期待される。来年度もこのような会を開催したいと考えている。

日ごろの疑問の解決のために

第22回 なんでも学術! なんでも回答? よろず勉強会

メインテーマ インプラント講座 (医科の先生のために)

- 講師 やわたデンタルクリニック院長 中新 敏彦 先生
とき 2012年2月2日(木) 午後7時15分~午後8時45分
ところ 近江町交流プラザ 4階「研修室1」 ※駐車場は近江町いちば館併設の駐車場へ(無料)
対象 保険医協会会員 (参加は無料、定員は先着30人とさせていただきます)
申込み 1月27日まで(講師の先生への質問がある場合は、1月20日まで)にお申し込みください。
主催 石川県保険医協会 / 学術・保険部
電話:076(222)5373 / FAX:076(231)5156

この勉強会では、出席された先生方に「ちょっと得をして」お帰りいただくことを目的にしていますが、いけません。今後は、この「見逃してはいけない」シリーズを続けておられます。今回は「とつとも得をした」のではなくかと思えます。今後は、この「見逃してはいけない」シリーズを続けておられます。今回は「とつとも得をした」のではなくかと思えます。今後は、この「見逃してはいけない」シリーズを続けておられます。

館村卓氏を講師に

第八回食育講演会

テーマ 経口摂取していない要介護高齢者・児の栄養支援に、歯科は何かができるのか?

副会長 平田 米里 (野々市市・歯科)



講師の大阪大学大学院歯学研究所准教授の館村卓氏

十一月十三日(日)午前九時半から、ホテル金沢で、第八回食育講演会が開かれました。テーマは、「経口摂取していない要介護高齢者・児の栄養支援に、歯科は何かができるのか?」で、講師は大阪大学大学院歯学研究所准教授の館村卓氏。会場には歯科医師および歯科衛生士三十人が集まりました。

講演は内容豊富で、三時間十五分にも及ぶ長いものでしたが、随所にユーモアを盛り込んだ巧みな話術のためか、飽きることなく、笑い転げているうちに終

最近、会議・行事日程が立て込んでいます。その分、議論、協議内容も多くなり、今日の理事会も三時間を超えた。報告事項の主なものは、次の通りである。総務部からは新規開業懇談会や金沢市国保問題対策会議と「いのちをまもる一〇・二〇国民集会」、経営・共済部からは保険医年金普及結果と来年の課題、歯科部からは講演会企画と「歯科医療危機突破決起集会」、学術・保険部からは能登地区講演

第14回 理事会点描

TPPと医療を議論

(11月1日・12人出席)

会とよろず勉強会、医療・福祉部からは保団連地域サートと座談会企画の提案。協議事項では、来年の総会記念講演会の講師選定に関して、統一見解をまとめた。また、保団連からの審査対策アンケートの担当者が選定された。そして、「国民皆保険五十周年企画」のアップル案や在宅訪問の取材対象者についての協議、TPP交渉と医療についてなど、広範囲にわたる議論がされた。

【小島 記】

れだけでは患者のQOLを回復できないケースが増えました。例えば、近年では救急救命医療が発達して救命率が向上しましたが、急性期での治療現場で「口から食べること」は最後までとされるのがほとんどで、口腔機能が元の状態に回復しないまま退院となったケースなどがあります。また、この講演会は食育講演会と銘打っています

が、「農水省や文科省のいう食育」は、「自分で、安全に食べられ、栄養吸収もできる」ことが前提となっていて、「その条件が欠けると対応が困難となること」をまずお話ししておきます」との前置きの後、「今回はこれらの『経口摂取できない場合』における『歯科の取り組み』についてお話しすることにします」と、講演を続けられました。以下、抜粋したいいくつかの項目に簡単なメモを添える形で紹介します。

「数独」の解答
1+2で、答えは「3」
(問題10面)

囲碁解答
黒1、3を決めてから5とコスマの好手段。白6に黒7で白死です。黒1で3は白黒1白4で失敗。黒3ですぐに5は白6黒7白口で白生きです。

将棋解答
2二金打△1三玉▲2三金△同玉▲2四金△1二玉▲1三歩△同桂▲2三金△同玉▲3三馬△1二玉▲2二金▲13手詰

外気が急に冷え込み、や原子力の問題を共に考えていきたい。経営・共済部では、懸案事項であり、保険医新聞新年号の開始時刻を厳格に守ろうと臨んだが、TPP問題を始め課題が山積しているため、今日も遅くまでの議論となった。総務部からは、先日開催した「国民皆保険五十周年記念」行事に三百八十五人の参加をいただいたことが報告され、次回理事会で、その活動報告の要約が提示されることになった。また三月十一日以降、当協会が力を入れ取り組んできた「原発・いのち・みらい」シリーズについては締めくくりとする方向となり、来年二月の総会記念講演に琉球大学の矢ヶ崎克馬先生をお迎えすることが決まっています。ぜひ、多くの方々に聴いていただき、放射能文化部からは、今週予定

第15回 理事会点描
やはりTPPが深刻
(11月15日・12人出席)

のチャリティーコンサートの企画内容の報告があり、保険医新聞新年号の内容の検討が行われた。学術・保険部からは今後の「よろず勉強会」シリーズの計画、医療福祉部からは地域連携訪問や在宅訪問などの取材計画の進捗状況が報告された。TPP問題は、未だ国民の十分な理解が得られておらず、医療問題でどのような影響がもたらされるのかまったく不透明である。私たち理事も、この問題に関して早急に学習する必要があることが確認された。また、会員の皆さんとの学習の機会を設けたいとも考えており、皆様のご意見をいただきたいと希望しています。

【斎藤 記】



訪問診療のエピソード: その50

在宅医療は心不全の血管拡張療法!?

大川 義弘(金沢市・内科)

高齢者は、環境の変化への対応が困難な場合が多いと言われています。それが如実に現れるのが、入院です。入院したら、おじいちゃんやおばあちゃん、家族が歩けなくなるとか、認知症が進んだとか、家族からよく聞かれます。リロケーション・ダメージという言葉もあり、世界共通のようです。高齢者医療のナショナルセンターである独立行政法人国立長寿医療研究センターの総長である大島伸一さんが、とある学会のシンポジウムで「在宅には不思議な力がある、病院から在宅に戻ると元気になる、このことを医学的に説明する必要があります」とおっしゃっていました。それは在宅のみならず、生活の場であるグループホームなどでも一緒のことで、両者の共通項を考えると、自ずから答えが出てくると思えます。それはなじみの空間で、なじみの人間関係の場だということです。そしてその場の主人公はその人自身であることです。

三好春樹という介護分野では有名な理学療法士がいます。この方は医師と看護師のこともよく思っている(医師で一目置いているのは、太田仁史氏と竹内孝

仁氏の二人だけ?)のです。高年齢者が医療の場面に置かれた場合と、福祉の場面に置かれた場合での決定的な違いは、後者は高年齢者が減ったのだからと推測されています。仁氏が、平成六年には心胸部比五四%となったとのこと。自宅にいて安心、安楽、気まま、自由感の中で生活することで、血管へのロードが減ったのだからと推測されています。

これを科学的に明らかにすることは、なかなか困難でしょうが、ストレスフルな環境は、生体にとって良いことでは無いだろうと容易に推測されます。予備力の少ない、また理解しての忍耐が困難な高齢者(特に認知症)の場合には、特にそうです。入院であってもそのことを理解した上で医療の提供が望ましいのですが、キウアが優先される中では、なかなか困難です。入院でも、なじみのヘルパーが一週間ほど付きっきりでケアすることができたらいいなと夢想しています。究極の医療と介護の連携です。

竹内孝仁氏は「医療は『生活』に出会えるか」という本を今から十六年前に出しています。読者諸兄にも一読を勧めたい本です。

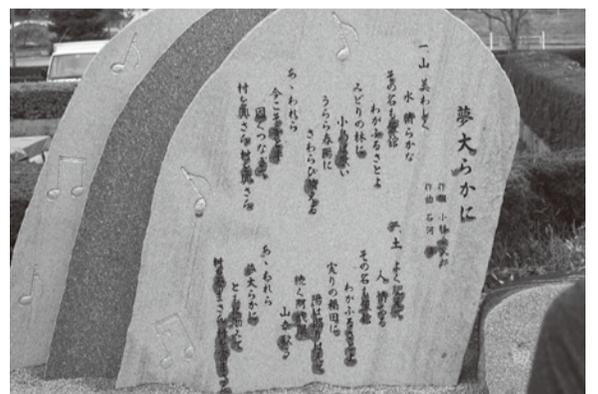
在宅は、形としては生活に出会える医療と言えませんが、その生活という意味と本質を深めていく必要があると感じています。

保団連公害視察会で、福島県飯舘村へ いい村をつくろう 何度でも

事務局 小野 栄子(福島県伊達市出身)



飯舘村役場内で村の現状を話す菅野典雄村長



飯舘村にある村民歌碑。その名も飯舘(山)美わしくとよ(略)あゝわれら今こそ手と手固くわがふるさとを興さん

十月十五・十六日、第二十六回保団連公害視察会が福島県で開催され、全国から六十八人が参加した(詳しくは全国保険医新聞二〇一一年十一月五日号参照)。ここでは二日目、計画的避難準備区域の飯舘村を訪問した印象記も含め、現在の飯舘村を伝えたい。

◇ 自然豊かな山あいにある飯舘村。紅葉でうっすら色づく森は美しかったが、人がなく、カーテンが閉められた家、放置された田畑の様子に避難区域であることを否応なく意識させられた。かつて、「若妻の翼」二〇一一年十一月五日号参照)。ここに、計画的避難準備区域の飯舘村を訪問した印象記も含め、現在の飯舘村を伝えたい。

自然豊かな山あいにある飯舘村。紅葉でうっすら色づく森は美しかったが、人がなく、カーテンが閉められた家、放置された田畑の様子に避難区域であることを否応なく意識させられた。かつて、「若妻の翼」二〇一一年十一月五日号参照)。ここに、計画的避難準備区域の飯舘村を訪問した印象記も含め、現在の飯舘村を伝えたい。

飯舘村は、今や、牛約三千頭の村は、今や、役場に併設された特別養護老人ホーム「いいいててホーム」の入居者約百人と村民十三人を残すのみとなった(二〇一一年十月現在)。

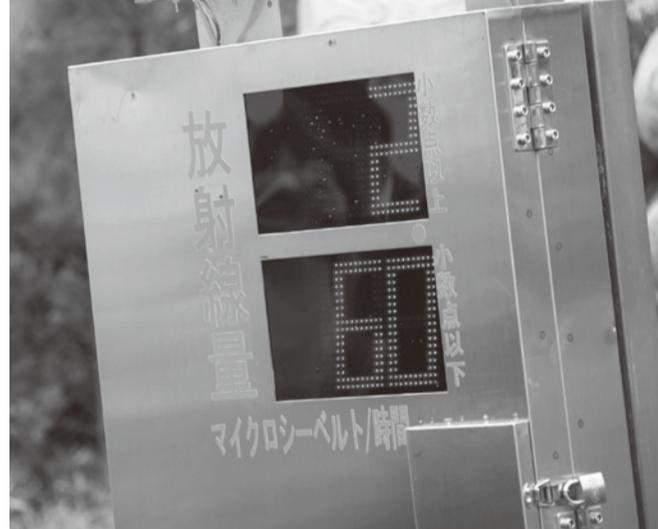
「全村避難」と言うが、留まる村民がいることに頭をかき上げる人もいるだろう。特養入居者は全員、家族がここに留めてほしいと言った人々だ。震災関連死がたびたび報道される中、留まることで守れる命もあるのではないかと。判断した村は、国との交渉で、特養入居者を無理に避難させないことにした。その

飯舘村は、他県・地域以上に揺れている。理想を貫きたくても、目の前に突き付けられた現実を克服しなければならぬ。そのためには除染か避難か、命か暮らしか、安全か安心か、その二者択一を迫られる。二者のいずれかではなく、いずれも尊重する選択肢はないのだろうか。考えるたびに焦りと無力感に襲われるが、それでも菅野村長は村内外に呼びかける。「いい村をつくろう。何度でも」と。その固い決意は、村民に提示した「希望プラン」にも表れている。また、この六月には「未来の翼」と題して、子どもたちをドイツに送った。パイオマス発電やグリーンツーリズムを視察するため。こんなときだからこそ夢を語る。なんと飯舘村らしい取り組みだ。「まだい(真手い、真心)の村は、きつと復興をとげるだろう。飯舘村の復旧・復興を支援し、見守っていく。そう決意し、飯舘村を後にした。

思いが強い。生まれ育った故郷、そこに築いた家、田畑、家族、友人、会社、学校、代々のお墓がある。慣れ親しんだ風景とともに生活のすべてを失うかもしれないという村民の不安と悲しみを想像する。

一方、いったん村を出て隣接する川俣町に入れば、飯舘村とは全く異なる日常の光景が流れる。作物が実る田畑、散歩をする人々。境界を隔てただけで、これほどの落差があることに驚く。

福島県や中途半端な立場にある飯舘村は、他県・地域以上に揺れている。理想を貫きたくても、目の前に突き付けられた現実を克服しなければならぬ。そのためには除染か避難か、命か暮らしか、安全か安心か、その二者択一を迫られる。二者のいずれかではなく、いずれも尊重する選択肢はないのだろうか。考えるたびに焦りと無力感に襲われるが、それでも菅野村長は村内外に呼びかける。「いい村をつくろう。何度でも」と。その固い決意は、村民に提示した「希望プラン」にも表れている。また、この六月には「未来の翼」と題して、子どもたちをドイツに送った。パイオマス発電やグリーンツーリズムを視察するため。こんなときだからこそ夢を語る。なんと飯舘村らしい取り組みだ。「まだい(真手い、真心)の村は、きつと復興をとげるだろう。飯舘村の復旧・復興を支援し、見守っていく。そう決意し、飯舘村を後にした。



飯舘村役場敷地内に置かれた放射線量掲示板。数値は10月16日のもの

市民公衆衛生

歯科特別編 / 石上 和男(その2)

4. 三十年間の成果(その2)

新潟県では、子どもたちのむし歯り患状況が見違えるほど改善したのに併せて、県民全体が歯科保健に積極的に取り組むようになってきた。国が実施している歯科疾患実態調査に合わせて、昭和五十六年から六年ごとに県民歯科疾患実態調査を行ってきたので、その結果を紹介したい。

まず、歯間ブラシやデンタルフロスなどの歯間部清掃器具の年代ごとの使用率の推移を見ると、年々使用率は向上し、三十年代後半からは四〇%を超えるようになってきている。また、図1は、歯科医院で定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合を示しているが、平成五年当時わずか二・二%であったものが、平成二十年には一三・八%と大幅な伸びを示している。それでも二割に満たない現状にあるが...

歯科医師の過剰といわれて久しいが、この現状に対する歯科の先生方の受け取り方はいかがであろうか？

図2は一人平均現在歯数(口の中に残っている自分の歯数)を年代ごとに昭和五十六年と平成二十年の間で比較したものである。すべての年代で一人平均現在歯数は増加しているが、最も大きな増加が見られたのは六十五〜七十四歳で、六・九本から十八・三本へと二・六倍となった。自分の歯が二十本以上あれば、ほとんどの食品を食べることが可能なことから8020運動が進められているが、現状は六十五歳で二十本に留まっていることから、われわれには、まだまだやるべきことがたくさんあると認識すべきである。

5. 歯科保健と医療費の関係

図3および図4は、新潟県寺泊町に居住

図1 歯科医院で定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合

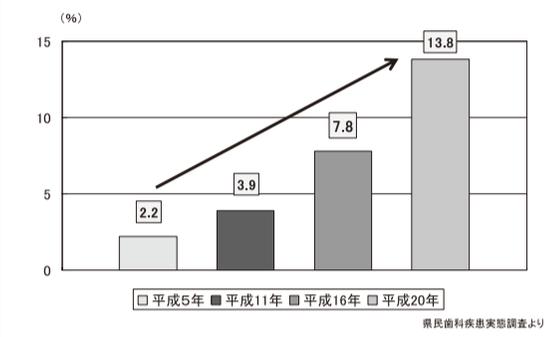


図2 永久歯一人平均現在歯数の推移

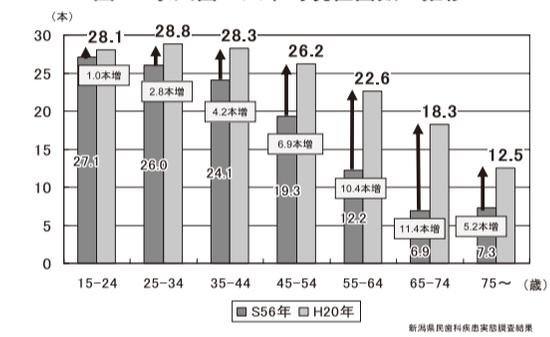


図3 機能歯数別にみた1人平均外来及び入院医療費

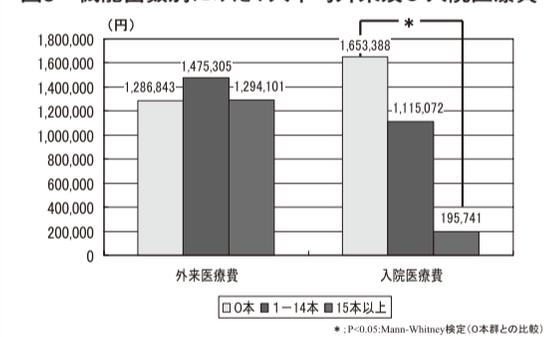


図4 機能歯数別にみた1人平均歯科医療費

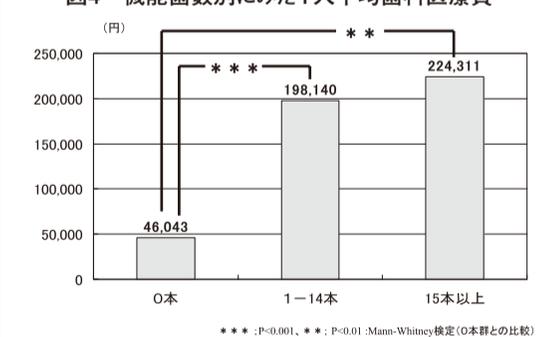


図5 小児期のフッ素洗口が成人期にもたらす効果

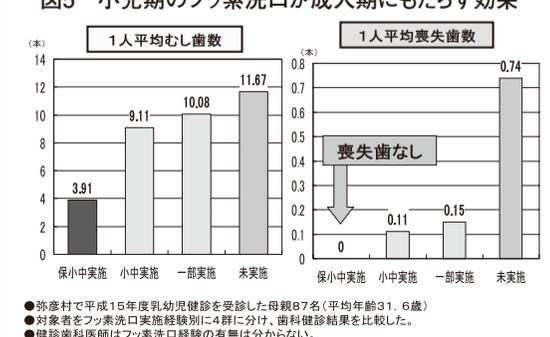


図3に示すように現在歯数別に外来医療費と入院医療費を比較すると、外来医療費は差が見られないものの、入院医療費は「〇本群」と「十五本以上群」間には有意の差が見られ、現在機能歯数が多いほど入院医療費が少なかった。逆に、現在歯数が多いほど歯科医療費は高くなっていた。これは歯がなくなると歯科受診率が極端に低くなることを意味しており、生涯にわたって自分の歯を有することは、その人にとって、歯科医師にとっても喜ばしい結果をもたらすことになる。

現在、このような観点からの調査は少ないが、今後規模を拡大したコホート調査などが行われ、歯科保健と人の健康状態との関連性が一層明らかになることが期待される。

8. 歯科口腔保健の推進に関する法律の制定
平成二十三年八月に同法律が成立し、直ちに公布、施行された。この法律の制定を歯科関係者は長年にわたって待ち望んでいた。すなわち口腔の健康は国民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たすことに鑑み、生涯にわたる施策を総合的に推進することが謳われているからである。歯科保健の普及啓発はもろろん、定期的歯科検診や歯科疾患の予防のための措置、障害者や高齢者への対策、調査研究などの実施が盛り込まれており、

「十五本以上群」の三群に分けて、一人当たりの五年間の医療費と歯科医療費の合計額を比較したものである。

6. フッ化物洗口の効果
新潟県が、十一年連続「むし歯の最も少ない県」である大きな理由は、永久歯のむし歯のためのフッ化物洗口を保育所・幼稚園、小・中学校単位で実施していることにある。フッ化物洗口費用は一人年間二百円程度であるのに対し、投資効果は二十倍を超える。さらに大切なことは、図5に示すとおり、小児期の予防対策が、成人になっても続いているということである。前述の弥彦村で乳幼児健診に来た母親八十七人(平均年齢三十一・六歳)の歯科検診を行い、母親のフッ化物洗口の経験別に区分して一人平均むし歯数や喪失歯数を見たものであるが、保育所から中学校までのフッ化物洗口を実施した群の一人平均むし歯数三・九一本に対し、未実施群は一・六七本、一人平均喪失歯数は〇本に対し、〇・七四本となっている。もちろん検診する歯科医師は母親のフッ化物洗口の経験の有無は分からない状態にあるので、信頼性も高い結果であると言える。このように

7. 全身の健康と歯科保健
歯は全身の健康を保ち、人々の生活の質向上を図るとともに、健康寿命の延伸に寄与する。糖尿病が歯周病を悪化させることは古くから知られていたが、最近の研究からは、その逆も明らかにされつつある。また、口腔内常在菌が誤嚥性肺炎を引き起こすことも分かっていることである。近年、歯周病菌が、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こす要因のひとつと考えられるようになってきた。それらの要因追求のための調査研究に全力が注がれることを、大いに期待するものである。

たつて自分の歯を有することは、その人にとつても、歯科医師にとつても喜ばしい結果をもたらすことになる。

8020を達成するためには、歯が生え始める数年間が最も肝心で、歯の将来を左右すると言っても過言ではないことがはっきりと分かった。

今後、具体的な対策が次々と打ち出されることになるが、その内容が問題なのである。この法律に裏付けられた体系的な歯科保健対策を、予算措置も含め、国が責任を持って強力に推進することが強く望まれ、今後打ち出されるであろう具体策を注視する必要がある。

関連図書を紹介します

副会長 平田 米里 (野々市市・歯科)

県職に石上先生のように、優秀な歯科医師がいることで歯科保健が充実し、住民の健康に大きく寄与できることが分かりました。さらには、県が核となって、国(政策立案)・大学(研究分野)・地元歯科医師会・保健所(実施主体)との連携も進みやすくなるようです。石川県にも石上先生のような方が欲しいところですね。

さて、フッ化物に関する学術的論考は紙面の関係で割愛したが、詳細を知りたい方には不満が残ったかもしれませんが、そこで本の紹介です。これ一冊で現状がほぼ把握できるかと思います。日本を代表する22人の研究者が執筆しています。



『フッ化物応用の科学』

◆出版社：口腔保健協会 ◆発行日：2010年9月29日
◆著者：一般社団法人日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会／編
◆ISBN 978-4-89605-267-1 ◆B5判・228頁 ◆価格(税込) 3,570円
※ネットでご購入ください

●弥彦村で平成15年度乳幼児健診を受診した母親87名(平均年齢31.6歳)
●対象者をフッ素洗口実施経験別に4群に分け、歯科健診結果を比較した。
●健診歯科医師はフッ素洗口経験の有無は分からない。

3月11日に起きた「東日本大震災」への対応として、緊急募金、被災地支援活動を行った。また、コンサートおよびゴルフ大会を被災者へのチャリティーとして開催した。



長期の避難所生活により誤嚥性肺炎が増えているため、嚥下障害を訴える高齢者に対して嚥下機能スクリーニングを行う歯科会員

東日本大震災の支援活動に全力



「福島第一原発で何が起きているのか」をテーマに、核・エネルギー問題情報センター理事の児玉一八氏を講師に招いて開かれた市民公開講演会(4月28日)

原発事故への対応

東京電力福島第一原発事故に対し、すべての情報開示を求める緊急声明の発表や「原発・いのち・みらい」の講演会活動・シリーズ寄稿など、多彩な活動を展開した。

医療改善運動に全力



東京・日比谷野外音楽堂で開催された「いのちまもる10.20国民集会」

「いのちまもる10.20国民集会」「10.30歯科決起集会」「11.20ドクターズデモンストレーション2011」への参加や署名活動などで、「社会保障と税の一体改革」による増税と社会保障切り捨て計画阻止などに向けて活動した。また、県内では国民皆保険50周年企画に保険医協会も実行委員会に参加し、リレートーク、『いのちの山河』上映などに協力した(11月6日)。

在宅医療の推進

本紙の「地域医療連携室訪問」「施設見学」に加えて、取材シリーズとして、「在宅医訪問」を開始した。また、在宅医療講演会も開催した。



和気あいあいで行われる「在宅医訪問」の取材

2011年

10大ニュース

石川県保険医協会

よろず勉強会を7回開催



小児科と歯科をテーマに七尾市で開催された「よろず勉強会」(7月17日)

よろず勉強会は、講演会形式にしたり、歯科をテーマにするなどの工夫により、参加者が増えて好評を得ている。シリーズ第21回からは「見逃してはいけないシリーズ」を開始し、新たな参加者が増えた。また、拡大版として、能登(七尾)でも開催した。

歯科部で多彩な活動が



第7回食育講演会の様子(4月3日)

「食育講演会」「障がい者歯科」「萌出障害」「再生医療」など、歯科部で多彩な講演会を開催した。また、「イレバデーからイハデー」の取り組みで、義歯のネーム入れのボランティアを行った。

審査・指導問題の活動を推進

「個別指導学習会」(五月二十二日)、「審査・指導に関する歯科会員懇談会」を開催(七月三十日)。会員の権利を擁護する活動を行った。



審査、指導に関する会員懇談会の模様(7月30日)



県庁会議室で開かれた要請活動(7月14日)

協会の県議会請願が全会一致で採択されるなど、子どもの医療費助成運動が大きく前進した。(通年)

子どもの医療費助成の改善に奮闘

全県的な活動が充実

小松市で「接遇講座」(6月24日)、七尾市で「よろず勉強会」(7月17日)、輪島市で「医師とコメディカルのための講演会」(10月30日)を開催し、各地の医師会および会員医療機関の協力を得て、全県的な活動を行った。



小松市で開かれた接遇講座(6月24日)

会員リレーエッセー ◆◆148◆◆

基礎スキーって何？



山本 司 (野々田市・歯科)

ついこの前まで暑かったと思ったら、早くも冬がやってくる。近年、秋が短くなったと感じるのは、私だけだろうか？

さて、冬のスポーツの代表といえばスキーだと思ふのだが、皆さんは基礎スキーなるものをご存じでしょうか？ アルペンスキーが規制された区間を滑り時間を競うのに対し、規定された演目の中でいかにゲレンデを安全に速く、なおかつ「かっこよく」滑り降りることができると採点競技である。スキーの腕前が「うまい」と盛りの時代には、「ウェーデルン」と呼ばれていて、リズムよく小刻みに板を振り回す滑り方が「うまい」とされていた。身長よりもはるかに長い板を振り回す技術を習得するにはかなりの努力が必要で、土・日・祝日はもちろん、仕事が終わった日などは、ナイタースキーにもよく出かけていたものである。

現在ではカービングスキーと呼ばれる板が主流になっており、それに合わせるように基礎スキーの技術も変わってきている。流れるような弧を描くカービングターンなるものが評価を受けるようになり、以前のようなスピードを殺してしまうような動作は減点の対象になる。ウェーデルンのような小刻みなターンを繰り返すものにも丸い弧を求められるようになり、さらに、コブの斜面でも跳ね飛ばされずに雪面と接しながら弧を描くという究極のテクニクが求められるようになった。これができるれば一級・二級というレベルではなく、さらに上のテクニカルブライズ・クラウンブライズとなる。

今やカービングスキーの板はほとんど短くなっており、百五十センチをきるサイズまで登場してきた。短いことで扱いが楽になり、うまくなると錯覚してしまうほどである。二百センチ超えのノーマルスキーを担いでいたころが懐かしく感じる。以前は、一人前に滑れるようになるにはかなりの日数を要したが、今の道具を用いれば、辛く長い修行のような日々も必要ないだろう。ゲレンデも以前ほどは混まなくなっており、晴れた日にスキーをするのは、すこぶる快適である。皆さん、たまにはスキーに出かけてみませんか。

さいとうのりとし 齊藤典才医師の (12回シリーズ)

キューバ視察

【第9回】 停滞するキューバ経済

齊藤 典才 (金沢市・外科)

キューバに入ると、いろんな分野で経済の発展が遅れているのが分かります。街には一九五〇年代のアメリカ車や、一九六〇年代以降のソ連製の車が、今でも

日本を出国する前に、『選』(二〇一〇年十二月号)という雑誌で紹介された「市場経済に舵切ったキューバ」というレポートを読み、キューバでも社会主義体制が成り立たないのかという思いがありました。それは決して日本が将来社会主義国を目指すべきということを意味していませんが、資本主義国の対立軸として孤軍奮闘するキューバには成功をおさめてもらいたいという願いがありました。

原稿募集中 趣味や旅行記、医療・福祉に関する平和、環境問題についてなど、会員寄稿をお待ちしています。事務局の杉野までご連絡ください。076(222)5373



この車は米製？ソ連製？



コンクリが剥げたままの革命広場



住宅も古いものばかり

多く走っています。国民が大勢集まりシンボル化している、観光客が真っ先に訪れる革命広場の地面のコンクリートは剥けたままです。街中を走行するバスからみれば、革命以前に造られたものと思われる古い建物ばかりで、家を新築している場面にはついに遭

引退後は、国家評議会議長としてキューバ国民は搾取され続けましたが、一九五九年のカストロらによる革命によって、本場の意味での自治独立に成功し、以後社会主義国として歩み始めました。政治形態はキューバ共産党による一党体制なので、他国から見れば非民主的、カストロ一家(フィデルを信用していると言います。革命成立後ですが、アメ

キューバは、一九六二年十月には、いわゆる「キューバ危機」という、核戦争が起ころう寸前までいった事件が起こりました。その後は、ソ連・東欧との貿易を通じて成長しましたが、一九八九年に東欧諸国が、一九九一年に東欧との貿易を通じて成長しましたが、一九九一年に回復しておらず、外貨不足、企業の生産効率、農業生産の停滞などが重くのしかかっている状態です。

リカは当然のごとく、その主権を認めません。一九六〇年二月にはソ連と貿易協定が結ばれます。一方、アメリカは一九六一年一月にキューバへの輸出を禁止し、国交を断絶します。同年四月にはアメリカに亡命したキューバの反カストロ派の人々を傭兵として、キューバに侵攻しましたが失敗(ブヤヤ・ヒロン事件)。また、一九六二年十月には、いわゆる「キューバ危機」という、核戦争が起ころう寸前までいった事件が起こりました。その後は、ソ連・東欧との貿易を通じて成長しましたが、一九八九年に東欧諸国が、一九九一年に東欧との貿易を通じて成長しましたが、一九九一年に回復しておらず、外貨不足、企業の生産効率、農業生産の停滞などが重くのしかかっている状態です。

SUDOKU

		1			9		
2	3			5		6	8
		4	9	7			
				9			4
4	8	2			5	9	7
7				8			
			6	3	4		
3	5		4			1	9
		8			6		

数独

二重枠(2つあります)に入った数字の合計はいくつになるでしょう。

【ルール】

- ①空いているマスに、1から9までの数字のどれかを入れます。
- ②タテ列(9列あります)、ヨコ列(9列あります)、太線で囲まれた3×3のブロック(それぞれ9マスあるブロックが9つあります)のどれにも1から9までの数字が1つずつ入ります。

(答え6面)

パズル制作/ニコリ

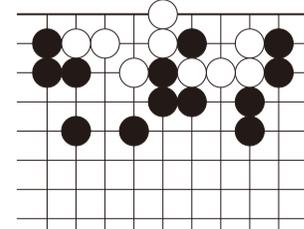
囲碁

中級編

■出題 九段 石樽郁郎

黒先 8分で二、三段以上

〈ヒント〉左側から工作して、最後は右側の眼形を奪います。



(解答は6面にあります)

将棋

中級編

■出題 九段 西村一義

6	5	4	3	2	1
				将	王
		馬	金		卒
				卒	

持駒 金 金

〈ヒント〉最後に馬の活用で…10分で初段

(解答は6面にあります)